

とうほくち ほうたいへいようおき じしん ひがい
東北地方太平洋沖地震による津波では大きな被害を受けました。津波はどのような被害をもたらすのでしょうか。

知っておこう ▶ 津波の特徴

津波による被害を防ぐために、津波の特徴を知っておきましょう。

①短時間で到達する

日本周辺で起きた地震により発生した津波の多くは、短時間で沿岸部に到達しています。東北地方太平洋沖地震の際、石巻市鮎川では地震発生後の40分後に最大8.6m以上の津波が観測されています。

②揺れなくても津波は来る

チリ地震津波のように、太平洋の反対側などで起きた地震により、遠くから時間をかけてやってくる津波もあります。

③高いところまで遡上する

岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、津波が集中するので高い津波となったり、高いところまで津波がかけ上がった（遡上）することがあります。東北地方太平洋沖地震では、宮城県南三陸町志津川で浸水高19.6m以上、女川町で遡上高34.7mが記録されています。

④川を遡る

津波は川を遡ることがあります。東北地方太平洋沖地震の津波では河口から49kmの地点まで遡ったともいわれています。

⑤何回もやってくる

津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せたり、複数の波が重なり高い波になったりすることがあります。最初の津波が一番高いとは限らず、後で襲ってくる津波のほうが高い場合もあります。

⑥引き波が先に来るとは限らない

津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく、最初に大きな波が押し寄せる場合があります。

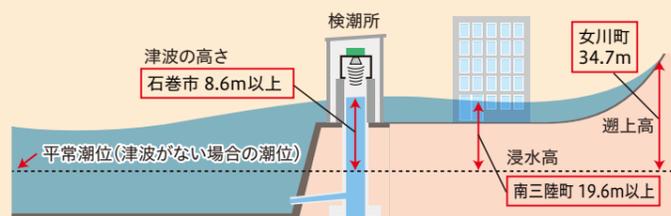


津波で公民館屋上に乗り上げたバス (石巻市雄勝町)

防災豆知識

「津波の高さ」、「浸水高」、「遡上高」

「津波の高さ」とは、津波がない場合の潮位（平常潮位）と津波によって上昇した海面との差、「浸水高」は陸上での津波の高さのことで津波の到達地点と平常潮位との差、「遡上高」は平常潮位と陸へかけ上がった津波の高さとの差をいいます。



東北地方太平洋沖地震による津波の高さ・浸水高・遡上高 (参考: 気象庁ホームページ「津波について」を加工して作成)

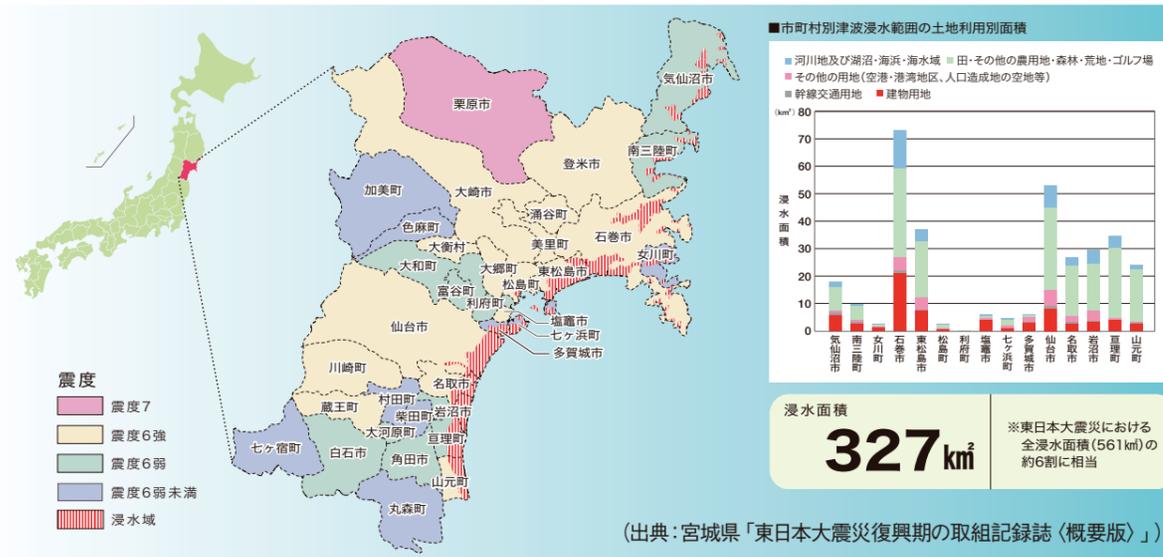


▶ 東北地方太平洋沖地震の津波被害と浸水面積 (宮城県内)

東北地方太平洋沖地震では、北米プレートの一部が海底で持ち上がったともいわれ、それに伴って発生した大津波が東北を中心にした太平洋沿岸に押し寄せました。この巨大津波により、沿岸各地は壊滅的被害を受けました。



押し寄せた巨大津波 (岩手県宮古市)



日本海側でも津波は起こる

日本海側でも過去に大きな地震が何回も発生しています。1983年の日本海中部地震や1993年の北海道南西沖地震では津波が沿岸を襲い、大きな被害をもたらしました。津波はプレート境界で起こる地震だけで起きるわけではありません。日本海側には明らかなプレートの沈みがないので、津波は断層のずれによって起こったと考えられています。



北海道南西沖地震による津波で決壊した堤防

日本海中部地震では遠足に来た子どもたちが津波にのみ込まれ、北海道南西沖地震では、わずか2~4分で津波が到達し、大きな被害をもたらしました。日本海側で今後引き起こされる津波の高さは、北海道や東北の一部では20mを超えるところもあります。(出典: 平成26年9月「日本海における大規模地震に関する調査検討会」最終報告より)



暮らしている地域や出かけた先での津波の危険性を知り、いざというときにはどこに避難するか調べてみましょう。